



福岡県北九州市 八幡西消防団第 11 分団 班長  
くすばし少年消防クラブ 指導者 浦濱 恵介

## 1 クラブの発足と概要

北九州市は、環境や福祉など様々なことに取り組んでいる市です。北九州市 95 万人、八幡西区 25 万人、私が所属している八幡西消防団第 11 分団（以下、「第 11 分団」という）管内は約 1 万人が住んでいます。

くすばし少年消防クラブは、平成 24 年 12 月 1 日に発足しました。きっかけは、日本消防協会主催の消防団幹部候補中央研修に参加したことでした。その研修の中で、消防クラブが全国に 4,647 団体（平成 29 年 5 月 1 日現在）もあることを初めて知りました。また、東日本大震災では、避難所のトイレ清掃や、物資の配布などで、消防クラブの子どもたちが活躍したことなども知りました。早速地元に戻って、第 11 分団で検討し、第 11 分団の後援会や管内の自治区会、市民防災会から協力をいただき設立することができました。

クラブ員は、高校生 4 人、中学生 10 人の合計 14 人（平成 30 年 1 月 1 日現在）です。運営は、運営協議会が行っており、そのメ

ンバーは、第 11 分団管内の自治区会長や、市民防災会の会長、第 11 分団の団員などで構成されています。

指導者は、第 11 分団の団員で、特に 30 代までの若手団員が中心となって指導しています。消防クラブ員が高校卒業後、第 11 分団に入団し、クラブ員の指導者として活躍している団員もいます。消防クラブを設立したことで、消防団の入団促進にもつながっています。

## 2 消防団員が指導者となり

くすばし少年消防クラブは、年間に 20 回程度活動しています。

まず、地域行事への参加です。「笹尾川水辺の楽校」が行っている、小学生を対象にしたカヌー教室では、カヌーに乗って監視したり、準備や片づけなどを手伝っています。他には、第 11 分団と一緒に「吉祥寺のふじまつり」や「香月黒川ほたるまつり」などで、警戒にあたっています。これまで自治区会では、地域行事の運営に中高生が関わることがあまりありませんでした。ま



消防団員による放水訓練



AED 取り扱い訓練



地域の小学生へ避難所体験を指導

た子ども会も少なくなってきました。消防クラブが参加することで、そういった地域の課題や悩みが解消され、自治区会の方々から大変喜ばれています。

次に、市民防災会の防災訓練への参加です。住民の方と一緒に、消火器の取扱いや、DIG（災害図上訓練）、起震車体験、通報訓練などを行っています。指導者が消防団員ということもあり、訓練の企画立案は大変ですが、防災訓練に参加することで、クラブ員も様々な訓練や体験を行うことができます。

他の活動としては、防災キャンプで飯盒炊飯やロープ結索を行ったり、年末警戒ウォーキング、放水訓練などを行っています。

平成28年8月には、宮城県の南三陸町で行われた少年消防クラブ全国交流会に参加しました。当日までに約1か月間、週に2～3回訓練を行いました。クラブ員は部活が終わった後に、また、指導者である消防団員は仕事が終わった後に集まり、暑い中、汗を流しました。訓練を通してクラブ員と消防団員がしっかりとコミュニケーションがとれ、とてもいい機会になりました。この全国交流会の中で、避難所体験があり、段ボールでの間仕切りなどを学びました。その知識を活かして、今度はクラブ員が指



ヨーロッパ青少年消防オリンピックでの国際交流

導者となり、自治区会の防災訓練で避難所体験の指導を行いました。

このような日頃の活動が認められ、平成29年7月には、ヨーロッパ青少年消防オリンピックに、日本代表として出場することができました。日頃の訓練で使っているものとは違って、ヨーロッパ仕様のホースを使っただけだったので、5月から何度も訓練を重ねました。競技は上位入賞とはなりませんでしたが、お国自慢の競技では、第3位を獲得しました！ ドイツやフランスなどのヨーロッパの同世代のクラブ員と交流でき、とても貴重な経験ができました。

### 3 今後の課題

クラブが発足して5年が経ちました。課題はまだたくさんあります。クラブ員の増加、活動内容の充実、指導者の育成、予算の確保、消防クラブの認知度向上など様々です。しかし、消防クラブができたことで、地域コミュニティの活性化や、消防団への入団促進など、プラスの効果もできています。今後も、地域、消防団、消防署が連携し、消防クラブの活動を盛り上げていきたいと思っています。